

事務事業名	森林バイオマスエネルギー事業		所属部	農林振興部	所属課	林業畜産課																	
総合計画体系	政策名	〈V〉挑戦し活力を産みだすまち〈産業〉		所属G	林業グループ																		
	施策名	(35)林業の振興		担当者名	山本草平																		
	目的・対象	市内の森林	意図	適正に森林を整備、保全し、森林資源を活用する。																			
	基本事業	(103)森林資源の活用		電話番号	0854-40-1050 (内線) 2412																		
目的・対象	市内の森林	意図	資源として活用する。			予算科目	<table border="1"> <tr> <td>会計</td> <td>款</td> <td>大事業</td> <td>大事業名</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>130</td> <td>02</td> <td>林業振興事業</td> </tr> <tr> <td>項</td> <td>目</td> <td>中事業</td> <td>中事業名</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>森林バイオマスエネルギー事業</td> </tr> </table>	会計	款	大事業	大事業名	0	130	02	林業振興事業	項	目	中事業	中事業名	10	15	13	森林バイオマスエネルギー事業
会計	款	大事業	大事業名																				
0	130	02	林業振興事業																				
項	目	中事業	中事業名																				
10	15	13	森林バイオマスエネルギー事業																				

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
雲南市内の森林	木材生産量を拡大する。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H24 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	森林資源の活用方法として、市内森林の林地残材を化石燃料(灯油等)の代替燃料(木質チップ)として利用することで林業需要の創出や森林整備を図っていく。 また、市民参加による林地残材の収集システムを構築し、収集対価に地域通貨を利用することで地域経済の活性化を図っていく。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R3年度実績(R3年度に行った主な活動) ■森林バイオマスエネルギー事業委託 ・事業システム管理業務 ・地域通貨「里山券」管理・換金業務 ・登録者及び林業技術講習会の開催 ■チップボイラー燃焼灰処理業務	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) ・H28.10月～ 森林組合等への林地残材搬出補助の引き上げ(1トあたり1,500円⇒3,000円)。 ・H30.4月～ チップ供給単価の見直し(1トあたり16,000円⇒22,000円、絶乾トンベース、税別)

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(計画)
ア システム登録者	人	347	387	423	450
イ 登録者搬出量	トン	955.0	885.0	941.0	1,000.0
ウ 事業体搬出量	トン	1,959.0	2,072.0	1,788.0	2,000.0
エ チップ供給量	トン	1,122.0	1,095.0	1,105.0	1,300.0

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R3年度決算)		② コストの推移		単位	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(計画)
(1)森林バイオマスエネルギー事業委託(市民参加型収集運搬システム運営等)委託料:9,020千円	財源内訳	国庫支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	11,927	12,820	10,784	12,395	
(2)チップボイラー燃焼灰分析・処理等手数料・消耗品:1,764千円		事業費計	千円	11,927	12,820	10,784	12,395	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	市内森林から搬出された木材を利用して木質チップを製造し、市内6公共施設にチップを納入している。市民搬出者は毎年増加(R2年度387人→R3年度423人)している。市民搬出者には、1トンあたり6千円(現金2千円・里山券4千円)で原木を買い取っており、里山券の利用を通じて市内経済の循環を図っている。
② 事業実施するうえでの課題	市民参加型収集運搬システムの登録者は増加しているが、収集実績は毎年1千トン弱で横ばいの状態である。市内6施設においてチップボイラー稼働している状況において、チップの安定供給に向けて原木確保を計画的に進める必要がある。チップボイラーの維持管理や燃焼灰等の処理に当初の想定以上の費用が発生している。
③ 課題解決に向けた改革改善等	今後のチップ需要を考慮した場合、市民個人による搬出材のみでは対応が困難であるため、森林組合等との連携により、森林の集約化を進め原木の安定確保とチップ供給サイクルを確立する必要がある。市民搬出者の安全対策や森林法の遵守などを普及・啓発し、持続可能な取り組みとしていく。